

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行 岩手県立二戸病院 図書広報委員会



## 新型コロナウイルス感染症への対応について

### ～誰も経験したことがない生活様式の中で～

総看護師長 林本 郁子



新型コロナウイルス感染症への対応について世界中が混乱をきたし、各国が様々に工夫しながら、ようやくワクチン接種が近づいてきました。

二戸地域では医療体制が逼迫するほどの新型コロナウイルス感染者の発生は無く、今日を過ごせております。皆様の生活は今まで経験したことがないような、不自由なことが起きているかもしれませんが、お一人お一人の行動が二戸地域の医療を守っていただいていると考えております。本当にありがとうございます。

約1年間、私たちは新しい生活様式を経験してきました。当院では出入り口制限、来院者全員のサーモグラフィーによる体温測定、面会禁止、Zoomの活用等様々工夫をし、来院される方々のご協力の下、感染防止に努めております。また、職員についても昼休憩の場所や食事の方法、会議の開催方法等、日常業務を見直しています。さらに、当院は二戸地域の急性期医療を担っていることから、予測がつかない状況で新型コロナウイルス陽性患者さんが緊急搬送される可能性もあり、すぐに対応出来るよう訓練を実施するなど準備をしております。私たちの誰も経験したことがない事ですが、他病院からの情報等を参考に対策を検討しております。

ワクチン接種の情報も様々届いておりますが、病院・診療所・市町村等と協力し、皆様にワクチン接種が出来るよう協議しているところです。お住まいの市町村からの発信をお待ちいただきたいと思います。

安心して生活できるようになるには、まだ、月日がかかりそうです。看護科職員は、面会制限のため、患者さんとご家族がお会いできない状況の中、少しでも安心していただけるよう対応に努めておりますが、不安なこと、ご不便なこと様々あると思います。制限されている状況下で、出来る事を考え実践していきたいと考えております。今後とも、二戸地域の皆様と一緒に、急性期医療を守っていききたいと思います。

### ボランティア募集

当院では、病院ボランティアを随時募集しています。活動内容は、

- ・患者受診時の受付・会計手続きの補助や案内
- ・がん患者・家族サロンたんぼぼの整理や対応
- ・庭園、花壇及び植栽の手入
- ・作品展示(絵画、生花など)
- ・図書の整理・貸出
- ・病院出入口、歩道及び駐車場等通路の除雪や土砂等の掃除等です。

活動時間は平日日中で、回数等はお相談に応じます。心身ともに健やかで継続して活動できる方のご参加をお待ちしております。

(お問い合わせ先 電話番号 0195-23-2191 担当:医事経営課長)

# 新型コロナウイルス感染症と眼科

【眼科：視能訓練士】

視能訓練士は眼科で医師の指示の下に患者様の眼の健康を守るお手伝いをさせていただいております。さて今回は、新型コロナウイルス感染症の眼に関する情報についてお話しさせていただきます。新型コロナウイルスは口や鼻といった上気道の粘膜から感染しますが、眼の粘膜組織である結膜からも感染する可能性があります。眼からのウイルス感染にどのように注意し、眼の病気からいかに自分を守るか、以下日本眼科医会のホームページから一部を抜粋して紹介しますのでご覧下さい。

Q1. どのようにして眼から新型コロナウイルスが感染するのですか？

新型コロナウイルスに感染した方の咳やくしゃみ、話しているときの唾液に含まれるウイルスがご自身の顔にかかった場合、結膜から感染する可能性があります。また、ウイルスが付着したものをさわって、そのまま手で眼をこすったりさわったりした場合にも感染する可能性があります。新型コロナウイルスの感染者のなかで、1～3%が結膜炎を起こす、とされていますが、結膜から侵入したウイルスが肺炎を引き起こす確実な証拠は見当たりません。

Q2. 外出を控えるように言われていますが、眼科を受診しても大丈夫ですか？

眼科では日頃よりウイルス性結膜炎の感染に十分に注意しています。そのため新型コロナウイルス感染症に対しても、医師やスタッフがマスク装着や手指消毒の徹底、診察室の換気など、安全対策を十分に行っております。むしろ、怖がってしまうあまりに受診を控えすぎて、診察を受けるタイミングが遅れたり、いつも使う目薬が途切れて、病気を悪化させることのないようにしましょう。

特に、①急激な視力低下を感じて、数時間～半日たっても戻らない ②急激な視野異常（視野の一部が欠けるなど）を自覚する ③充血をともなう眼の激痛を自覚する ④頭痛や吐き気をともなう眼の痛みが続くなどの場合には早急な対応を要する可能性がありますので、眼科にご相談ください。

Q3. 普段から定期的に眼科に通っているのですが、どうすればよいですか？

症状が変わらない場合やお薬が十分にある場合など、通院の間隔をのばせる場合もありますが、必ず病院に連絡して担当医の指示を仰いでください。

ただし、①普段とは明らかに見え方が違う場合（視力低下、視野異常など） ②緑内障があり、処方点眼薬が無くなりそう、あるいは無くなってしまった場合 ③いつもと違う眼の痛みが続く場合、充血、痛みが次第に悪化する場合 ④加齢黄斑変性や糖尿病網膜症のため、数か月ごとに定期的に硝子体注射を受けている場合 ⑤手術後、まだ間もない場合には自己判断は禁物ですので、眼科にご相談下さい。



# 糖尿病と感染症

【臨床検査技術科】

糖尿病はよく耳にする病名だと思いますが、実際の患者数は平成28年国民健康・栄養調査では、糖尿病有病者が1000万人、糖尿病予備群が1000万人と推計されています。また令和元年の調査では糖尿病有病者の割合は男性19.7%、女性10.8%と男性にいたっては5人に1人が糖尿病を強く疑われ、ここ10年の中で1番高い数値を示しています。そんな中、糖尿病患者さんは、『免疫力が低下している』『感染症にかかりやすい』といわれていますが、今回はなぜ免疫力が低下するのか？どのような感染症にかかりやすいのか？についてお話ししたいと思います。

免疫とは、細菌やウイルスなどの病原体が体内に侵入した際に、それらに抵抗して体を守る能力のことで、白血球の一部で好中球が病原体を食べることで退治する**自然免疫**と、白血球の一部でリンパ球を介して抗体を産生したり、感染細胞を殺したりする**獲得免疫**の2つがあります。血糖値が高いほど好中球の働きが悪くなると言われており、高血糖が長期間続くほど毛細血管の血液の流れが悪くなり、酸素や栄養が十分に行き渡らず細胞の働きが低下し、白血球が感染部位に到達しにくくなり、免疫の働きが悪くなることから感染しやすくなります。また、抗体の産生能も低下してしまいます。一度細菌に感染すると、インスリンを効きにくくする物質（サイトカインなど）が多くなり、血糖値が普段よりも高くなります。このことが糖尿病の状態をより悪化させてしまい、感染症をさらに進行させてしまう要因になります。

感染症については、疫学データより、糖尿病患者さんは糖尿病のない患者さんに比べて罹患するリスクが約**1.2倍**になると報告されています。細菌の中でも**耐性菌**（抗菌薬が効きにくい菌）による感染症や**結核**、白癬（水虫）やカンジダなどの**真菌感染**など日和見感染症の原因となる病原体に感染しやすくなります。また、重症化しやすいことも知られています。肺炎や尿路感染症、インフルエンザウイルス感染症や現在世界中で流行している新型コロナウイルス感染症においても、**重症化の危険因子**であると報告されています。マスク着

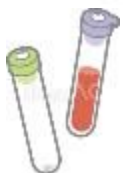


用や手指衛生の徹底、「3密」を避けるなど、感染症にかからないようにする心掛けが重要です。



## 心掛けるポイント！

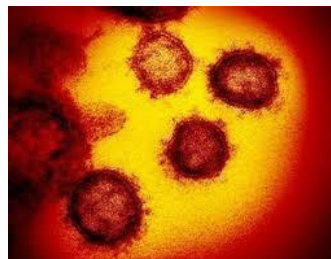
- ★ 定期的を受診し、自身の**血糖値・ヘモグロビンA1c(※)**把握する
- ★ 忘れずに内服薬、インスリン注射を使用する
- ★ 規則正しい食生活
- ★ 適切な運動と睡眠



※ヘモグロビンA1c…検査前1-2ヶ月間の平均的な血糖値を反映し、血糖コントロールの指標となる



## ワクチンについて



【薬 剤 科】

今年度も残りわずかとなってきました。

さて、4月から新型コロナウイルスワクチンの予防接種が予定されています。

今回はワクチンや予防接種の基本を振り返ってみようと思います。

### 1. 集団免疫について

予防接種を受ける目的の1つに【集団免疫】の獲得というものがあります。ワクチンを接種し、人口に一定割合以上の人が免疫を持つことによって、感染者が出てても他人に感染しにくくなるため、感染症が流行しなくなり、間接的に免疫を持たない人も感染から守ることができます。この状態を【集団免疫】と言います。

また、【集団免疫】は感染症の種類によって免疫を持つ人の割合が異なります。現在新型コロナウイルスに関しては、どれくらいの割合の人が免疫を獲得すれば良いかはわかっていません。

そのほかにもワクチンを接種することによって、【発症予防の効果】、【重症化予防の効果】【感染予防の効果】も期待されるため、より多くの人にワクチン接種を受けてもらう必要があると考えられます。

### 2. ワクチンの副反応について

新型コロナウイルスワクチンの安全性や副反応について不安を持つ方がいるかもしれません。先駆けて接種を行ってきたアメリカの報告では、ファイザー製の新型コロナウイルスワクチンを接種した場合に重度のアレルギー症状を発症する割合は100万人に2~5件程度と報告されています。首相官邸のワクチンに関するウェブページでは、重度のアレルギー症状の発生割合をこのアメリカの報告を引用し【100万人中5人】と公表しています。

もし副反応によって健康被害が生じた場合は、厚生労働省で【予防接種健康被害救済制度】という制度を設けていますので安心して接種していただきたいと思います。

厚生労働省ではホームページにて新型コロナウイルスワクチンについて情報提供を行っていますので、そちらもご参照ください。

二戸病院広報「ざしきわらし」第32号（令和3年3月15日発行）

編集発行：岩手県立二戸病院 図書広報委員会

〒028-6193 岩手県二戸市堀野字大川原毛38番地2

TEL 0195 (23) 2191 ・ FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

